2008 年　　月　　日

名古屋市長　松原　武久　様

平針南学区連合自治会　　会長　桐生　泰助
平針の里山を守る会　　代表　宗宮　弘明

平針南の里山保全に関する要望書

平針運転免許試験場の西側、社会福祉法人（平針福祉会）の南に「名古屋の里山の原形」を残す約10ha の緑地帯があります。ところが，今、このまとまった土地が大きく開発されようとしています。

この緑地は，名古屋に残された希少な価値を持つもので、その特徴は以下の５点です。（１）湧水のあるため池が 4 ヶ所あり、（２）それに付属する湿地には、トウカイコモウセンゴケ、ミズスギ等の植物が一面に繁茂しています。（３）ため池の南には 3 面にわたる棚田があり、（４）その東には柿畑と梅林があります。また、（５）緑地の北側にはコナラを中心とした広葉樹林と竹林が広がっています。このような多くの特徴を持つ里山を、緑地として保全することは多くの価値をもたらします。

以下に、7 つのメリット（価値）を記します。

１）都会で、身近な自然に触れることは、子どもの感性を豊かにし、市民の憩いの場となります。

２）この里山には色々な生き物が棲んでおり、生物多様性の保全および学びの場所となります。

３）森、ため池、水田など、まとまった緑の効果により、ヒートアイランドの緩和に役立ちます。

４）タケノコ、ウメ、カキやイネの生産過程が都会のなかで観察・体験できます。

５）森やため池、水田の保水・遊水機能により、豪雨時の洪水調整機能が期待されます。

６）森の大気浄化作用による、大気汚染の軽減が期待されます。

７）森の炭酸ガス吸収機能により、温暖化防止効果が期待されます。

名古屋市は２０１０年に生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）を開催します。そのテーマの一つに日本独特な「里山・里川・里海の保全」を世界へ向けてアピールするとあります。今、日本全国で急速に里山が失われつつあります。このような時、都会に残されたこの貴重な里山の保全は世界に誇れる施策の一つになり得ます。どうか、COP10 に向けて名古屋市が、里山の保全に強力な指導力を発揮されることをここに要望致します。

上記の意見にご賛同の方は下の署名欄にご署名をお願い致します。なお、個人情報保護の観点から、ここに記入された情報はこの里山保全活動以外には使用致しません。

氏名	住所